

発刊に寄せて

日本陸水学会近畿支部会の今後の展望

杉山裕子

日本陸水学会近畿支部会は、陸水学の進捗と普及を願って、立ち上げられました。1990年3月に大阪府立大学において第1回研究発表会が開催され、以降毎年1回の研究発表会を中心とした活動を行ってきました。私自身も、大学院生だった1995年に第6回研究発表会(京都大学総合人間学部)で発表を行って以来この会との関わりが続いています。大学教員となって初めて指導した学生の初口頭発表も日本陸水学会近畿支部会(2003年、第15回研究発表会: 姫路工業大学環境人間学部)でしたし、その後も多くの学生が初めて学会発表に挑戦する場として日本陸水学会近畿支部会に参加してきました。このように、主に大学生や大学院生の発表の場として一定の役割を果たしてきたこの会ですが、2011年から、当時の三田村緒佐武会長の提案で、市民や環境教育の主体である高校生などにも積極的に参加してもらえるような会の方・取り組みを検討し始めました。総会での議決を経て、2012年3月から年1回の陸水巡検を、2013年11月に第1回陸水懇話会を開催し、会員相互の交流と、情報交換の場としての機能をより高めていくべく活動の幅を広げています。そしてこのたび、いよいよ大きな柱である、会誌「陸水研究」の発刊をおこなうことになりました。

会誌「陸水研究」は、若手研究者や市民の方からの原稿を歓迎します。原著論文、総説、短報、調査・報告、学位論文抄録、研究発表会講演要旨、雑報など、さまざまな種類の原稿を掲載し、近畿地区の陸水学研究や活動を支えたいと考えます。学術的価値の高い論文に加え、さまざまな地域の重要な陸水データ、環境調査や環境教育活動などを記録し、伝えていくことができる貴重な雑誌になると期待しています。

今後は、会誌「陸水研究」を柱とし、年1回の研究発表会、陸水巡検、陸水懇話会などの交流の機会を設けることにより、近畿地区を中心に、陸水学に関係する研究者や活動団体、個人の活動家、小・中・高等学校等を繋ぎ、裾野を広げ、人を育てていくことを目指します。

会誌「陸水研究」の存在が、若い研究者、研究者の卵、地方公共団体や環境NGOなど、陸水学の研究調査活動に従事する方々の励みになればと思います。皆様からの活発なご投稿をお待ちしています。また、編集についても会員各位のご協力をお願いすることになると思います。皆様の力を貸していただければと思います。末永く、どうぞよろしくお願いいたします。